

大杉谷国有林からの手紙

9通目 ～新しい取組 その2～

事務所のある尾鷲市でも、日々、朝晩の寒さが増してきた今日この頃、大杉谷の木々は、僅かな時間を惜しむかのように、その華やかな彩りを競い合っています。

さて、今回は、7通目で紹介した「大杉谷国有林の豊かな森林生態系をシカの食害から守る新たな取組」について、各目標毎の取組状況を経過報告します。

この新たな取組のポイントは、これまでの調査や実証事業の結果を踏まえ、シカの捕獲に本格的に着手したことです。

なお、捕獲に当たっては、国道42号線から片道1時間半以上かかる奥山での捕獲なので、どのようにしたら、効率的で確実な捕獲ができるか、シカの食害から大杉谷の貴重な生態を守ることができるかを考えながら、様々なチャレンジを行っています。



(1) 地域の担い手の育成・確保、対策コストの軽減

①捕獲協力者の地元猟友会の皆さんに、地域の担い手となってもらうため、なぜ、今、大杉谷国有林でシカの捕獲が必要なのか、新しい捕獲方法のポイントについての勉強会を開催しました。

②奥山での捕獲なので、捕獲労力を軽減するため、「自動撮影カメラ」、「衛星通信」、「無線通信」等を活用した捕獲システムの構築に向けた試行にも取り組んでいます。



捕獲に向けての現地勉強会

(2) 錯誤捕獲が発生しないための捕獲手順の確立、発生した場合の体制づくり

①使用するくくりワナの幅をクマの平均的な掌幅以下にし、ツキノワグマの錯誤捕獲の可能性を少なくしました。また、捕獲区域内に「自動撮影カメラ」を設置し、ツキノワグマの出没状況を確認しながら、ワナの設置を行っています。

②誘引に使用する餌は、ツキノワグマ、キツネ、イノシシ等を誘引する可能性が低い、干し草を固めたハイキューブを使用しています。

③関係機関への事前説明の徹底を行っています。



シカを誘引するためのハイキューブ

(3) 対象とする個体群毎の目標と期待される効果

①「季節移動個体群」、つまり夏場に大台ヶ原などの高標高域に生息し、冬場は尾根伝いに低標高域に移動する個体、の捕獲を目指して、移動経路を遮断する形で防護柵を設置しました。防護柵内には、自動撮影カメラを設置し、シカの移動状況を画像分析しています。10月16日現在では、季節移動の兆候は見られませんが、これまでの調査結果によると11月頃から、大台ヶ原周辺の高標高域からの移動が予想されます。

このため、移動状況を的確に把握しながら、移動経路への集中的なワナの設置等効率的かつ効果的な捕獲方法を検討していきます。



シカの誘導効果が期待される防護柵

②一方、来年度以降、広葉樹の植栽等を行い、森林の回復を目指す区域に生息する「定住個体群」の捕獲については、捕獲状況を確認しやすい林道周辺に「くくりわな」、「囲いわな」を設置しました。なお、わなの設置箇所については、自動撮影カメラで誘引状況等モニタリングしながら、設置箇所を臨機応変に移動しています。



自動判別装置付の囲いわな

9月27日にワナを設置してから1ヶ月が過ぎ、これまでに32頭(10月26日現在)を捕獲しています。これから12月まで約2ヶ月間、引き続き自動撮影カメラ情報や捕獲協力者の報告などの情報の収集、分析、事業へのフィードバックを行い、より効果的で効率的な捕獲を実施し、さらにデータを収集を進めます。そして、来年2月頃、今回の取組について、専門家の皆さんからご意見をいただき、取りまとめる予定です。

この報告により、奥山における効果的なシカ捕獲が進み、植生回復事業と一体となった「大杉谷国有林の貴重な森林生態系の保全」に繋がればと考えています。この挑戦については、今後とも、この紙面でお知らせしますので、楽しみにしてください。

(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)